

西日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 山崎 正夫 様

拝啓 初冬の候、貴社いよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、福山駅前水辺公園プロジェクトは、2008年5月9日（金）にJR西日本岡山支社を訪れ、JR西日本（西日本旅客鉄道株式会社）代表取締役社長 山崎正夫様あてに福山駅前広場整備工事に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、JR西日本（西日本旅客鉄道株式会社）の所有地（約2,600平方メートル）において文化財保護法に則り貴重な外堀遺構の保存をお願いする要望書を提出いたしました。

しかし、御社からはこの要望に対するご返答は未だに戴いておりません。また、先般来の駅前広場事業に関する懇談会では、文化財に関する取り扱いや考え方について、福山駅構内と沿線の耐震化工事の際には高架下にある石垣を非常に慎重な方法にて保存復元を施行された御社とは思えない発言をお聞きし、大変残念な気持ちでございます。

本来、文化財は過去に生きた全ての方々の英知であり、精神性と生活そのものの体現でありますので、人類の宝として大事に守っていかないとならないものと考えます。福山城の外堀遺構も、福山に生きた人々そのものであり、歴史の教科書といえます。ゆえに、子どもたちの教育のためにも市民が集う広場として活かされるべきと考えます。それが11万人余の署名を下された皆様の思いであります。

さて、この度、福山水辺公園プロジェクトでは水辺公園広場としての機能と国史跡への追加指定、駅前の諸機能を充足させた市民案とも言える整備案を作成いたしました。

この案は、福山市の基本レイアウト案に配慮し創られたものですが、無限の価値をもつ外堀遺構の顕在化により、広大な水辺空間の持つ憩いや福山の歴史と文化に根ざした魅力ある持続的な集客力の発揮、周辺不動産価値の向上、アメニティ、防災、環境など様々なメリットがあります。ループバスの利用とトランジットモールの導入により交通機能と広場機能等を調和させ、中心市街地の賑わい創出、歩行環境整備などの市の中心市街地整備目標をも達成しながら、70億円相当の公園が用地費なしで獲得出来るものと考えています。

また、歴史資源の利活用による独自性あるまちづくり、水系再生、将来の舟運を含むマルチモーダルシフトなど国の国土政策、時代の要請にも適っています。コスト負担が一見大きく思われますが、決してそうではなく、むしろリターンが見込まれ、運用次第で投資効果が十分に期待できることは売上げ4割増加を成し遂げたミュンヘンのモールやサン・アントニオ等の成功事例が如実に表しています。

中心部への流動客数からみるように、この10余年で半減以上の激しい衰退の流れを変えるには従来型の開発像からの大胆な発想の転換が求められていると思います。

御社にとっても交流人口が増え、若い人たちが集まる可能性の高い私たちの案は評価に値するのではないのでしょうか。

今回、市が提案している案では御社の所有する土地の外堀遺構は活かされないまま大半が破壊されます。文化財保護の観点において、見過ごすことは出来ません。国は政策として観光庁を発足させ、種々の法律を新たに成立させ、観光立国を目指しているのはご存じの通りです。国の施策からも外れた福山市の案に迎合することなく、御社の目指す観光策と文化財保護を実現していただきますようお願い申し上げます。

末筆ではございますが、御社のますますのご発展をお祈り申し上げます。

敬具

平成20年12月2日

福山駅前水辺公園プロジェクト
代表 三宅国裕

